

緑地を楽しむ本

『空を飛ぶ昆虫のひみつ』

星 輝行 写真・文

少年写真新聞社



この本の「おっ!」と目をひくところは、昆虫たちを正面から見た時のはねの動きの簡単な図解があるところです。

たとえば、トンボの仲間のアオモンイトトンボは、2対4枚のはねがそれぞれ独立して動きます。それぞれに別の筋肉がついているからだそうです。見開きページには、アオモンイトトンボの飛行写真が連続写真になっていて、はねがバラバラに動いている様子がよくわかります。

トノサマバッタは、後ろばねを背面で打ち合わせてとび、あまりはばたかない前ばねは、バランスを取ったり、防御に使っているようで、スズムシのオスはそれを音を出す器官として使っているのだとか。

それぞれの昆虫のはねの駆動域が、簡単な図ながらもよくわかり、連続写真とともに昆虫のとぶ様子に親しみがわきます。

夏の終わりから秋のはじめ、とんだり、鳴く昆虫のはねの動きにさらなる興味がわく本です。

(遠藤)